

○月△日

教育委員会職員からの提言

日直××

職員会議での検討過程（全5回）

- 6月28日（議題）「25年後の夢を語る」など [教育委員会議室]
- 7月14日（議題）テーマ選定など [教育センター]
- 7月29日（議題）骨子・具体策など [赤煉瓦文化館]
- 8月18日（議題）具体策などに必要なデータ検証など [博多小学校]
- 8月29日（議題）最終とりまとめと検討内容の確認など [アジア美術館]



（赤煉瓦文化館）



（博多小学校）



（アジア美術館）



（職員提言検討会議の様子）

《時間割》 4つの提言

《1時間目》アジアの人々と学び合える都市づくり

《2時間目》笑顔の子ども，元気な先生，楽しい学校

《3時間目》地域の力で子どもを育み，子どもの力で
地域を元気に ～地域と学校は共存共栄～

《4時間目》文化芸術を育み，文化芸術を発信する都市



《 1 時間目 》 アジアの人々と学び合える都市づくり

古くからアジアの国々と様々な形で交流し、発展してきた福岡市は、今後もアジアとの関係を重視しつつ、世界に目を向けた国際都市として中心的な役割を担うことが期待されています。子どもたちを福岡市の将来を担う人材として育成するために、すべての教育活動を通して国際理解教育を推進し、「アジアの一員としての福岡市民」との意識を醸成する必要があります。その上で自国とアジアの国々の伝統や生活習慣、考え方などを理解・尊重し、様々な文化を持つ人々との共生を双方向でめざす態度を育成する必要があります。

- (単元 1) 学び合うための基礎づくり
- (単元 2) 地域や家庭環境を軸にしたアジア交流活動



(単元1) 学び合うための基礎づくり

①義務教育段階でアジア各国の言語の必修化

今後のさらなる国際化、グローバル化に対応し、アジアの人々との間で相互理解を深めるためには、英語はもとよりアジアの言語でも簡単な日常会話ができる程度の語学力が必要です。

◆小学校高学年からの中国語、韓国語の必修化

②アジアを意識した学校環境づくり

福岡市では、公共交通機関や商業施設で多元語サービスが進んでいます。学校でもアジアを意識した環境整備が必要です。

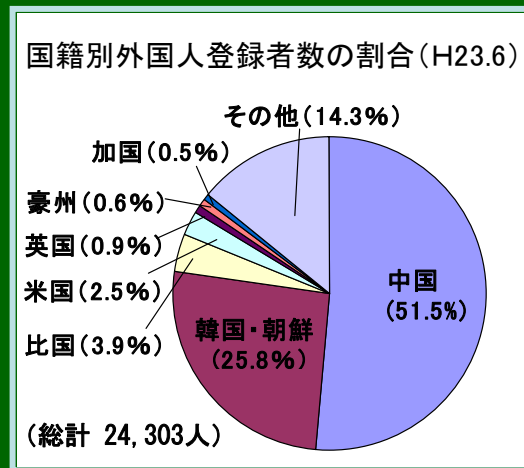
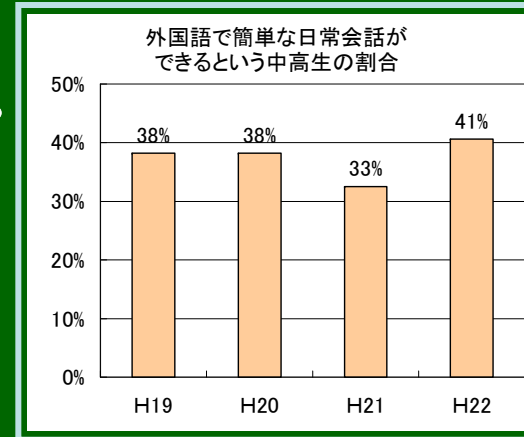
◆全市立学校でアジアの国々との姉妹校締結

◆多言語での校内放送や掲示物などの学校文化への取入れ

③福岡市を中心としたアジア史について歴史観の共通理解

これからの国際社会で主体的に生きる福岡市民としての自覚と資質を養う上で、歴史教育を通して思考力や判断力を育成することは重要です。加えて、「アジアのリーダー都市」をめざす福岡市は、アジアの人々と真の信頼関係を構築し、ともに成長、発展していかなければなりません。そのためにも歴史観の共通理解を図る必要があります。

◆日本史、世界史に加え、小中学校で中国史や韓国史を充実



(単元2) 地域や家庭環境を軸にしたアジア交流活動

アジアの人々と相互理解を深めるためには、学校間での姉妹校交流だけでなく地域間の交流も重要となります。簡単な日常会話程度の語学力を身につけ、地域レベルで伝統芸能や行事などを紹介したり、各国の家庭での生活の様子や子育ての様子を知ったりすることが、それぞれの文化の素晴らしさの共有や、従来のライフスタイルの見直しに繋がります。

「アジアの一員としての福岡市民」との意識のもと自ら進んで交流する態度を育成することが必要です。

- ◆外国人のホームステイの際に地域活動に参加してもらうなどの地域や家庭での取組促進



(釜山教育交流公開授業)



(博多山笠)

《 2 時間目 》 笑顔の子ども，元気な先生，楽しい学校

社会は様々な人で成り立っており，その人たちがともに手を取り合って過ごせる社会こそが魅力ある社会となります。障がいの有無に関わらず，すべての子どもが通い，より良い大人になるためにいつも笑顔で学べる学校，教員が子どもと向き合い，教育活動に専念できる学校，子どもと教員がともにいきいきとできる楽しい学校が必要です。

- （単元 1）すべての子どもが通える学校（教育のユニバーサルスクール化）
- （単元 2）教職員が充実した学校
- （単元 3）IT（情報技術）でつながる子ども，学校，家庭
- （単元 4）「福岡版生きる力」を育てる学習の充実



(単元1)すべての子どもが通える学校(教育のユニバーサルスクール化)

①特別支援教育機能を備えた学校づくり

障がいのある子どもの数は年々増加しています。障がいはその子の個性としてとらえ、障がいの有無に関わらず、すべての子どもが、その地域にある学校に通い、安心してみんなと一緒に教育を受けられる学校づくりが必要です。

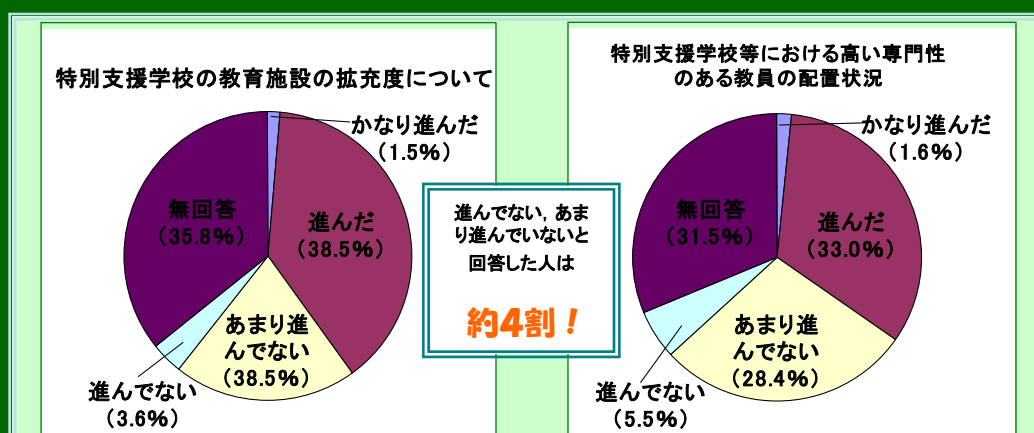
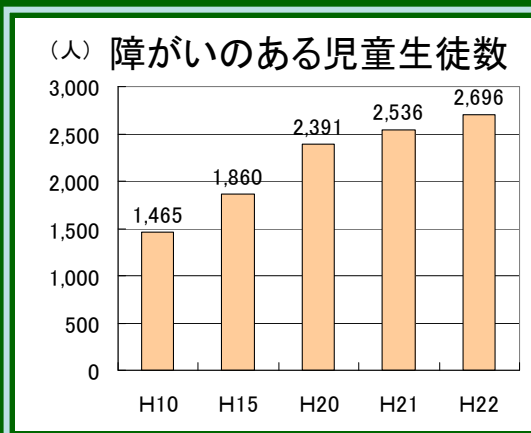
⇒⇒ 特別支援学校の廃止

- ◆トイレ、スロープ、エレベーターを全校に配置するなどの学校施設の整備
- ◆児童福祉や医療職の専門職員の配置や専門機関との人事交流

②地域との支援体制の確立

障がいのある子どもは学校教育を終えると家庭や地域で生活をしていきます。障がいのある子どもが地域で安心して生活できる体制づくりが必要です。

- ◆地域ボランティアの育成や地域の方々への啓発
- ◆学校、地域、専門機関等とのネットワークの構築



(単元2) 教職員が充実した学校

教員が職責を果たすためには、「子どもと向き合う時間」の確保がとても重要ですが、社会状況の変化に伴う子どもの実態の変化、保護者・地域からの要請の多様化、教員の事務的業務の増加などにより、その時間を十分に確保することが難しくなっています。教員の職責を果たすためにも、教員が子どもと十分に向き合える取組が必要です。

- ◆20人学級制、副担任の完全配置などきめ細かな指導ができる環境整備
- ◆クレーム対応専門員（法律職等）などの専門職の配置
- ◆事務長制度導入による教員事務の軽減

平均学級規模			法定勤務時間のうちの授業時間の割合					
区分	小学校	中学校	法定勤務時間(A)		授業時間(B)		(A)のうち(B)の割合	
			小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
日本	28.0	33.0	1,899	1,899	709	603	37.3%	31.8%
米国	23.8	23.2	1,913	1,977	1,097	1,068	57.3%	54.0%
英国	22.7	24.1	1,265	1,265	654	722	51.7%	57.1%
独 国	21.9	24.7	1,775	1,775	805	756	45.4%	42.6%
OECD平均	21.6	23.7	1,659	1,662	786	703	47.4%	42.3%

(出展) 図表で見る教育2010

(単元3) IT (情報技術) でつながる子ども, 学校, 家庭

① パソコン等を活用した教育の充実

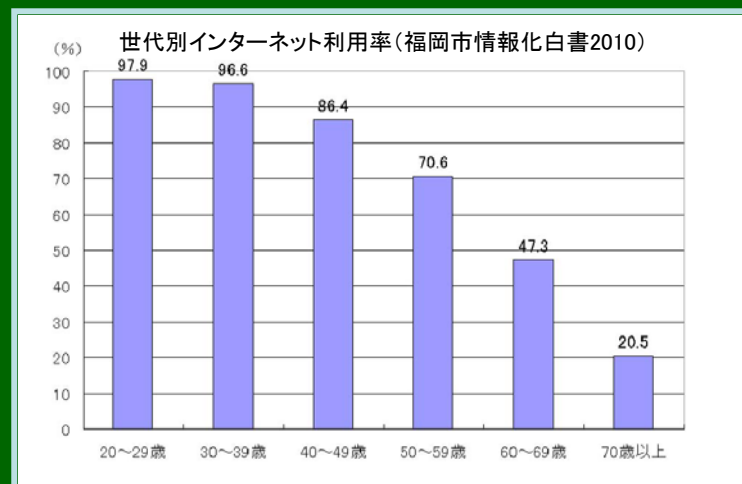
インターネットの普及や情報化の進展は, 市民のライフスタイルにも定着しています。その知識を正しく身に付け, 学校や家庭でもITを有効に活用していくことが必要です。

- ◆子ども一人ひとりへ校用パソコンの配置
- ◆学校に登校できない子どもの授業参画のツールとして活用
- ◆学校, 家庭を結ぶ情報共有ツールとして活用

② IT活用による他の教育機関との連携

子どもたちの調べ学習や教員の教育資料の収集等, ITを学校教育の中で有効に活用していくことが必要です。

- ◆図書館, 美術館, 博物館, 教育センター, 少年文化会館等の教育機関との連携



(単元4) 「福岡版生きる力」を育てる学習の充実

① 道徳・社会性を養う教育

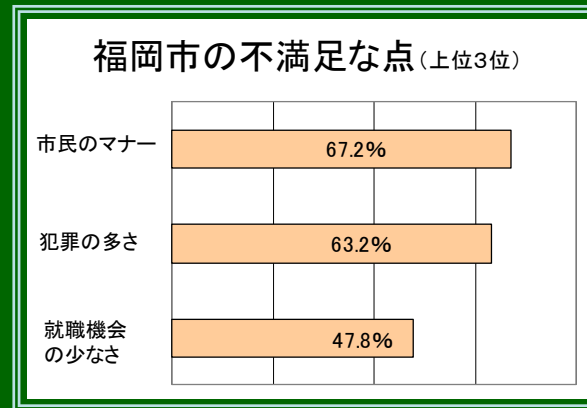
福岡市では9割以上の方が住みやすい、住み続けたいと思っている一方で、6割以上の方が、「市民のマナー」や「犯罪の多さ」に不満を感じており、規範意識や自尊心、他者を思いやる心などを育成していく必要があります。

◆道徳や社会教育を中心とした「福岡版生きる力」を育てる学習の充実

② 「福岡版生きる力」を育てる環境の整備

「福岡版生きる力」を実践するには、道徳教育や社会性を養う教育を学び、それを行動に移そうとする態度を育成することが重要です。民間からの教員採用や大人になっても継続して学べる環境整備をしていく必要があります。

- ◆教員免許制の弾力化等を行い、地域の高齢者や社会人などの採用
- ◆社会教育の拠点となるべく生涯学習センターの設立
- ◆各小学校区に図書館を整備



《 3 時間目 》 地域ので子どもを育み，子どもの力で地域を元気にする～地域と学校は共存共栄～

教育は学校だけでなく，地域の支援を受けながら行われるものであり，また，子どもたちは将来，地域を支える存在となります。学校と地域が共存共栄するために，地域の方々が常に学校に関わり続け，それぞれの特性を活かすとともに，課題を共有し解決する取組が必要です。

また，福岡市は海，山，川，農業，商店街など地域の特色も豊かです。その資源を活かした活動を行うことも必要です。

(単元 1) 学校は子どもの，みんなの拠点空間

(単元 2) 地域は子どもの遊び場，学びの場



(単元1) 学校は子どもの、みんなの拠点空間

①地域でつくる「通いたくなる学校」

子どもたちは将来、地域を支える存在となります。就学前の幼児期から小・中・高までの教育に地域が関わることで、地域への愛着心を育て、その子どもが社会に出た後、学校にしっかり関わる取組が必要です。

- ◆地域の高齢者が地域の遊びや伝統芸能の伝承
- ◆地域のプロスポーツ選手や芸術家など各方面に秀でた達人による授業や部活の指導

②コンビニエンススクール化（学校施設の高次・多機能化）

学校は、地域の方々にとって最も身近な公共施設です。その学校に区役所機能などを持たせると誰もが気軽に使える利便性の高い施設となり、地域の方々が学校に関わる気運の高まりにつながります。

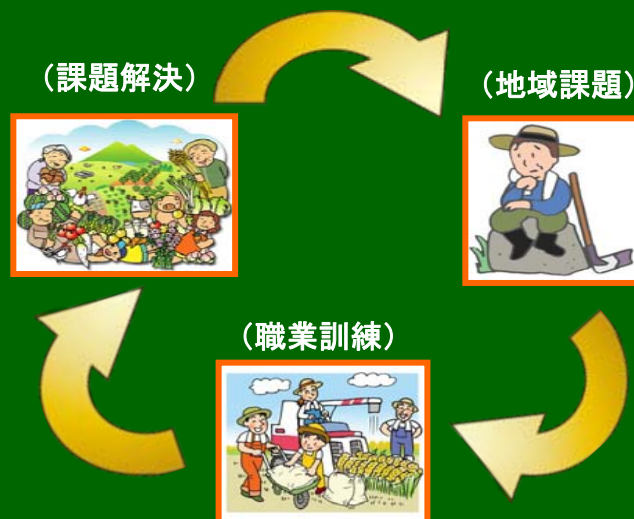
- ◆学校で乳幼児健診や子育て相談、コミュニティ支援などを実施
- ◆高齢者の元気回復の場（サークル活動・交流等の拠点）として施設を開放



(単元2) 地域は子どもの遊び場，学びの場

福岡市は、海、山、川、農業、商店街など地域の特色が豊かですが、その資源を活かした遊びや学びの環境を整えます。また、それぞれの地域が抱える課題に子どもがより実践的な職業訓練として取り組み、課題解決という収益が地域に還元される（**コドモコミュニティビジネス**）仕組みを確立し、その中から地域は後継者を見出していく。地域と子どもたち、学校を結びつけ、ともに共存共栄するためにはそのような取組が必要です。

- ◆異なる特色を持った地域の学校との交流や体験学習
- ◆子どもたちによる高齢者世帯向けサービス（御用聞き，家事代行，配食など）
- ◆子どもたちによる休耕田を使った農産物の生産・加工・販売
- ◆企業や商店街，農漁業事業者等による「地元っ子限定後継者育成基金」の創設



《 4 時間目 》文化芸術を育み，発信する都市

福岡市は古くから大陸文化の窓口として，アジアの人々と交流し，栄えてきた歴史や文化のある都市です。また，美術館，アジア美術館，博物館が芸術文化の振興拠点となっています。今後，福岡市が国際都市として発展していくため，歴史，文化，芸術を創造，共生，発信することで，諸外国に福岡市を学び，理解してもらい，「文化・芸術の街ふくおか」「歴史ある都市ふくおか」などと呼称されるような都市となる必要があります。

(単元 1) 文化芸術の拠点及び発信都市福岡

(単元 2) 子どもの時から芸術に慣れ親しむ環境

(単元 3) 歴史・伝統文化の保存と活用



(国宝 金印)



(元寇防塁)



(単元1) 文化芸術の拠点及び発信都市福岡

福岡市には、美術館・アジア美術館・博物館があり、文化芸術振興の拠点となっています。今後、福岡市が文化芸術の街として成長していくためには、そのような施設を人材育成の場として活用するとともに、福岡市の文化芸術への取組を発信していく必要があります。

- ◆若手育成を目的とした展示会，コンサート等の場として提供
- ◆芸術村（芸術家が作品の発表や絵画教室，講演会等を一体的に行なう長期的イベント）の開催



(美術館)



(アジア美術館)



(博物館)

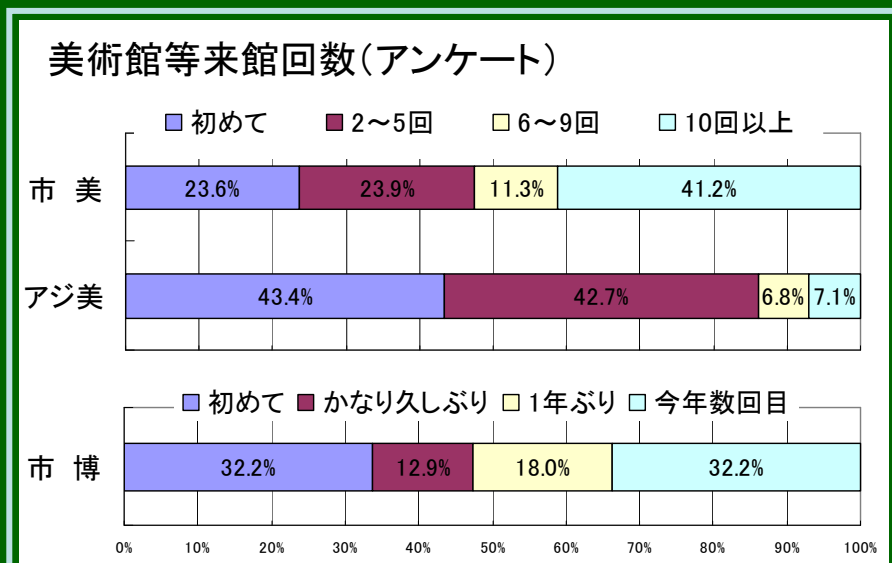


(単元2) 子どもの時から芸術に慣れ親しむ環境

文化芸術を育んでいくには、文化芸術に日常的に触れる機会を設けるなど福岡市民が気軽に歴史や文化を学ぶことができる環境づくりが重要です。

そのためには、子どもの時から「本物」の文化・芸術に親しむ教育を行なうことや、その大切さを親が子どもに家庭の中で教えていく取組が必要です。

- ◆ 芸術家や音楽家などを外部講師として学校に招聘
- ◆ 芸術に親しむ親、これから親となる人に対して講座等を開催



もっと、美術館などに通い、
文化・芸術に親しむ環境を!!



(単元3) 歴史・伝統文化の保存と活用

福岡城跡・鴻臚館跡は、福岡市民はもとより、国内外に福岡市の歴史を学び、理解してもらう福岡市の歴史的象徴です。にもわらず、保存・整備が十分にできているとは言いがたい状況です。現在、NPOや市民団体との連携により、保存・整備の気運も序々に高まりつつあります。

福岡城跡・鴻臚館跡の保存・整備を進めることで、福岡市が歴史・文化を守り、それを活かした都市であることを国内外に発信していく必要があります。

- ◆福岡城・鴻臚館の復元
- ◆史跡，建造物などを生かした地域づくり
- ◆福岡の歴史・伝統文化を理解するための学習の充実



(福岡城跡・大手門)



(鴻臚館跡展示館)



職員会議メンバー(20名)

石田 昌平, 内田 久徳, 宇野 光博, 太田 誠
金床 和広, 上角 智希, 木下 宏仁, 末吉 武史
菅波 正人, 寺地 愛優, 藤 克己, 橋本 啓
畑江 君枝, 原野由美子, 樋口 里美, 日野 桂策
星加 沙織, 松尾 智, 宮川 文明, 八尋 哉

(五十音順)

